

第3学年 英語科 学習指導案

令和4年1月19日 第5校時

1 単元名・教材名 Here We Go! 3 Unit7 「Tina's speech」

2 単元について

(1)教材観

本単元は、中学校生活をともにした Tina が、日本を発つ前にお別れのスピーチをする場面である。3年前に日本に引っ越すと聞いて不安に襲われたこと、日本でカルチャーショックを受けたこと、友達や家族のおかげで乗り越えたことなどを語る内容となっている。

中学校3年生のこの時期は卒業を具体的にイメージし始める頃であり、自らの中学校生活の中で努力したことや大変だったことなどを振り返ったり、これから迎える友達や先生との別れ、新しい出会いに対する思いや考えを語らせたりするよいきっかけにもなる。さらに、スピーチは社会に出てからも必要なソーシャルスキルであり、印象に残るスピーチにするためには事実だけでなく、自分の具体的なエピソードや思いや考えを添えることが大切だと学ぶことのできる単元でもある。

(2)生徒観

本学級の生徒は入学以来、コミュニケーションの目的や場面、状況等を考慮して、自分の意見や考えを事実添えて表現できるように指導してきた。令和3年度の全国学力・学習状況調査における生徒質問紙「英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。」という問いでは、英語を言葉として使用している生徒が多いことが、回答からも裏付けされている。また、自己表現を行った後で知識・技能に還ることを繰り返したことで、同年度の埼玉県学力・学習状況調査では、伸びが見られた。しかし、自分の考えを何とか伝えようとする積極性や粘り強さが見受けられる反面、正確性（文法・語彙）にはまだまだ課題があることが同調査において明確になった。今後は、「意味・形・場面」の3つの柱をより意識した授業を展開することで、確かな英語力を身につけていくことのできる生徒を育成していく。

(3)指導観

英語は言葉である。言葉とは、事実や自分の考え、意見を伝えるものであり、文法や語彙を学んだだけで、自然と表出されていくものではない。つまり、生徒には英語を実際に使うことで、「言いたいこと」と「言えること」のギャップ（言語能力の穴）を感じさせ、必要感をもってインプット（知識・技能）に戻るというサイクルを生み出すことで言語習得につなげていくことが重要である。そのために、実生活に近い場

面や話題を授業内に設定したり相手意識を高めたりする中で、生徒が使用文法を制限されることなく、自分の持っている英語を最大限活用できる授業を展開することが必要不可欠である。

また、生徒に英語を使用させて終わりにするのではなく、フィードバックを内容面と言語面の両面に当てることを大切にしている。内容面のフィードバックでは、自分の考えや意見を整理し、発言内容を広げたり深めたりするには、どうすれば良かったかについてクラスで考えを出し合っている。言語面のフィードバックでは、同内容を違う文に言い換えたり文法や語彙を補ったりして、正確性を高めている。このように両面の強化を粘り強く繰り返していくことで、社会に出てからも生きる即興力をつけていきたい。

3 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「読むこと」、については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 書くこと	<p><知識> 「疑問詞+to+動詞の原形」、「仮定法」の意味・形・機能に気付き、理解している。</p> <p><技能> 自分の思い出やクラスメートへの感謝の気持ちを「疑問詞+to+動詞の原形」や「仮定法」を用いて伝え合う技能を身につけている。</p>	<p>場面や状況にふさわしい表現を用いて(または引用や選択をして)、卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートやALTと話し合っている、また、書いている。</p>	<p>場面や状況にふさわしい表現を用いて(または引用や選択をして)、卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートやALTと話し合おうとしている、また、書こうとしている。</p>

4 単元の指導と評価の計画

時	◆ねらい ○活動	評価			
		知・技	思・判・表	態	
1	<p>◆Unit7 の内容の概要を理解することができる。</p> <p>○ピクチャーカードとやり取りを</p>				<p>◎評価規準<評価方法></p> <p>※目標についての「形成的評価」は行うが、記録に残す「総括的評価」は行わない</p>

	<p>通して、本文の概要を理解する。</p> <p>○リスニングタスクを変えながら、何度も本文の音声を聞く。</p>				め、空欄としている。
2 本 時	<p>◆中学校の思い出や卒業時の気持ちを想像して話し合うことができる。</p> <p>○学校生活やその他思い出について振り返る。</p> <p>○自分の思いや考えを添えて表現する。</p>		○	○	<p>◎卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートや教師と話し合っている。 〈観察〉</p> <p>◎卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートや教師と話し合おうとしている。 〈観察〉</p>
3	<p>◆本文の内容について、考えたことや感じたことなどを伝えことができる。</p> <p>○英文を聞いてピクチャーカードを本文通りに並び替える。</p> <p>○推論発問や評価発問で本文に対する理解を深める。</p> <p>○本文の音読練習をする。</p>				※目標についての「形成的評価」は行うが、記録に残す「総括的評価」は行わないため、空欄としている。
4	<p>◆本課の言語材料を理解することができる。</p> <p>○「疑問詞+to+動詞の原形」と「仮定法」の意味・形・機能に気付き、理解する。</p> <p>○もし宇宙に行けたら、どんな実験がしたいかについて話し合う。</p>		○		◎「疑問詞+to+動詞の原形」、「仮定法」の意味・形・機能に気付き、理解している。 〈ワークシート〉
5	<p>◆本文の内容を自分の言葉で人に伝えることができる。 〈リテリング〉</p> <p>○やり取りで本文の内容を振り返る。</p> <p>○推論発問や評価発問で本文に対する自分の考え思い出を喚起する。</p> <p>○ピクチャーカードを用いて、即興で本文についてリテリングする。</p> <p>○リテリングのフィードバックを</p>				※目標についての「形成的評価」は行うが、記録に残す「総括的評価」は行わないため、空欄としている。

	内容面と言語面の両方に行う。				
6	<p>◆本文のリテリングの幅を広げ表現することができる。</p> <p>○言いたくても言えなかった表現をクラス共有し表現の幅を広げていく。</p> <p>○再度リテリングを行い、内容面と言語面の両方の質を高める。</p>				<p>※目標についての「形成的評価」は行うが、記録に残す「総括的評価」は行わないため、空欄としている。</p>
7	<p>◆卒業を控えた今の自分の気持ちを思い出とともに即興でスピーチすることができる。</p> <p>○ALTに自分の意見や考え、事実をふまえて伝える。</p> <p>○タブレットに自分の発話を録音し、分析・改善する。</p>		○	○	<p>◎卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートやALTと話し合っている。</p> <p>〈観察〉〈ワークシート〉</p> <p>◎卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートやALTと話し合おうとしている。</p> <p>〈観察〉〈ワークシート〉</p>
8	<p>◆自分のスピーチ原稿を書くことができる。</p> <p>○宿題で改善してきた自分の英語表現を発表し合う。</p> <p>○改善した自分のスピーチを書く。</p>		○	○	<p>◎卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどを書いている。〈ワークシート〉</p> <p>◎卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどを書こうとしている。</p> <p>〈ワークシート〉</p>
後日	<p>○パフォーマンステスト</p> <p>○ペーパーテスト</p>	○	○	○	

5 学校研修課題との関わり

研修課題「未来を切り拓く力を育成する小中連携の取組」
～自分の思いを持ち・伝え合い・高め合える児童生徒の育成～

小学校で外国語科が教科になって2年が経過しようとしている今、中学校の役割は重要性を増している。つまり、小学校で育まれた資質・能力を引き継ぎ、伸ばすことが今まで以上に求められている。昨年度の校内研修において、小学校卒業までに身につけてほしい力を英語科で協議した。その結果、情意面では「自分の本当の気持ちを伝えよ

うとする力」「あいまいさに耐える力」、技能面では「基本的な語順が分かること」「アルファベットが書けること」にまとめた。今後、小学校とも共有し連携することで9年間の連続性のある学びにつなげていきたい。

また、生涯にわたり英語を使用し、未来を切り拓く力を育成するために、授業内でのコミュニケーションが実生活のものに近づくよう、目的や場面、状況等を明確に設定したり相手意識を持たせたりする。また、やり取りにおいて生徒の本当の考えや気持ちを引き出すことを意識させる。こうすることで、小学校で触れた音声や言語材料に、中学校でも継続的に触れられるよう自然なインプットとアウトプット場面を多く創出し、9年間の学びをその先へとつなげていく。

6 本時の学習指導

(1)目標 中学校の思い出や卒業時の気持ちを想像して相手に伝えることができる。

(2)展開 (2/8)

過程	学習活動	学習内容	指導上の留意点 ☆評価の観点 ◎研修課題との関わり
導入 15分	○あいさつをする。 ○即興でチャットをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">テーマ</div> 『高校で頑張りたいこと』	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでまとめた内容の英文を即興で話し合う。 ・中間指導で表現を広げる。 ・ペアを変えて再度話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎チャットに入る前に、やり取りでのモデリングや背景知識を刺激することで話を広げる。 ・フィードバックを内容面と言語面に行い、流暢さと正確さの向上に努める。 ・中間指導が生きているか、注視しながら生徒を観察する。
展開 25分	○本時の目標を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">中学校の思い出や卒業時どんな気持ちになるかを想像してクラスメートと話そう。</div> ○中学校時代の思い出について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における思い出深いものを挙げる。 	<p><三郷の授業づくり・3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に生徒の発言をマッピングでまとめていく。

	<p>○卒業時どんな気持ちになるか考え話し合う。</p> <p>○中学校の思い出や卒業時の気持ちを想像して相手に伝える。</p>	<p>(友達・先生・学校行事・授業・部活など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの行事や出来事についての理由やエピソードについて話し合う。 ・卒業時をイメージして、今までに感謝したことやこれからの決意を話し合う。 ・印象に残っている思い出を自分の経験や気持ちとともに表現し合う。 	<p>◎質問を交えながら内容面を広げていく。</p> <p>・モデリングややり取りで十分なインプットを確保し、アウトプットにつなげていく。</p> <p>☆卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートや教師と話し合っている。〈観察〉</p> <p>☆卒業に向けて思い出や感謝の気持ちなどをクラスメートや教師と話し合おうとしている。〈観察〉</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>○振り返りをする。</p> <p>○あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中に使用した英語に対して言語面へのフィードバックを受け正確性も高めていく。 	<p><三郷の授業づくり・9></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒間の評価も行い、互いに高めていこうとする関係を育む。 ・生徒の発言から学びを広げ深められるよう努める。